

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190501304		
法人名	株式会社オストジャパングループ		
事業所名	グループホームいきいき		
所在地	北海道札幌市白石区北郷9条3丁目3番1号		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190501304-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190501304-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成27年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHいきいきは看取りもおこなっている為、介護度の高い方も多く入居されております。介護度が高くてもその方のできることを少しでも長く継続して行えるように見極め支援し、その方が何を望んで、どのような生活を送りたいかを汲み取り希望する生活に近づけるよう日々努力をしております。お天気の良い日には近くの土手や公園への散歩や、自施設の花壇・畑の様子を見に行かれたり、数人でドライブや外食にも出かけます。また季節の行事を多く取り入れ、入居者様に四季を感じてもらいながら楽しんで頂けるよう取り組んでいます。平成24年から取り入れている認知症予防の公文学習療法では、参加されている入居者様はいつも楽しまれ笑顔も増えて良い効果が出ております。地域との交流では、読み聞かせのボランティアさんが月1回来訪してくれたり、近くの保育園さんとの交流があったり、小中学校の職場体験の受け入れをさせて頂いたりしております。町内会さんとは開所当初より、運営推進会議への参加のほか、夏祭りのボランティアとして協力して頂きテントを借りたり、町内会の防災訓練に参加したりと年々、良い関係が築けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に理念を掲示している。また、毎朝のユニットカンファレンスで理念を読み上げ、共有し実践につなげる努力をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の防災訓練に参加させて頂いたり、事業所の避難訓練に参加して頂いている。近所の保育園の行事にも参加させて頂いたり、事業所の夏祭りにはご家族、町内会やボランティアに参加協力して頂いている。		
3		○事業所のお力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中学生の職場体験を受け入れ、認知症ケアについてお話をしたり、運営推進会議でご家族・地域の方々へケアの実際について説明させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	近況報告をし、意見を伺う時間を設けサービスに活かす努力をしている。DIGを用いた避難経路確認の際は、町内会から学校等にある防災備品の説明や最短で安全な避難経路なども教えて頂いた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は不明点の確認や、指導を仰ぐなどの連絡を取っている。運営推進会議の防災訓練では消防署の職員にも参加していただき協力体制を築く努力をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の防止に対するマニュアルを用いて定期的にカンファレンスで研修をし、正しく理解するように努めている。入居者本意の行動であるかの確認を行い、制限がかからないようケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する新聞等の記事を用いて勉強会を実施している。また虐待防止マニュアルを元に振り返り学ぶ機会を持ち、常に意識しながら虐待の防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などで学ぶ機会を設けている。現在は制度を新たに利用する入居者がいないため、活用はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点がある場合は、理解して頂けるよう十分な説明を行い納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でその機会を設けたり、面会時は積極的に話し掛け、要望等を伺い、運営に反映させるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、各ユニットのカンファレンスに出席し意見等を聞き、反映させるべく調整している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を利用し、各自が年間の目標設定を行い、向上心をもって働けるようにしている。またケアの質を向上させ、よりやりがいを持ってよう、月数回の課題にも取り組み、日々の意識の向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。また月数回、一人ひとりのケアの実際を把握して必要な課題を設定し具体的に取り組み、振り返りをもって職員の成長につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部研修に参加した場合には交流の機会があるが、ネットワーク作りや相互訪問等の活動は現在は行っていない。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面会し、生活に対するご意向を伺ったり、不安や困っていること、要望等に耳を傾け、良好な関係が築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と見学も含め面会し、困っていること不安なことを伺い、またグループホームでの生活についても説明させて頂き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご意向を積極的に伺い、現在できることや何がしたいかなどの情報収集に努め、可能な限りの自立支援が出来るように努めている。また、他のサービス利用が考えられる場合は、その提案も行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意なこと、できることを共に行い、一方の立場に置かず支え合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時にはケース記録を読んで頂き、近況報告を行なって、現在の状態やケアの内容をお伝えしご意見や要望、ケアのヒントなどの助言も頂きながら共に本人を支えていけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の友人や兄弟の来訪を積極的に受け入れ仲介したり、定期的に自宅に帰れるように支援しているが、全入居者ではない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立せず共に笑い合えるようさり気無い仲介をし会話ができるように支援している。また入居者同士で話し合い共に協力して家事をお手伝いして下さっている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了が、ターミナルであることが殆どで、ご本人が亡くなられたあとも、退居の手続き等で来訪された際は必要に応じてフォローをしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から暮らしの意向を聞いたり、会話や過去の環境等から情報収集を行い、希望や意向をくみ取るように努めている。また困難な場合も、本人本位で検討するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にフェイスシートを記入して頂いたり、聞き取りを行い、またご本人にも馴染みの暮らし方を聞いたりして情報を共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の詳細をケース記録に落とし、カンファレンスで話し合い、一人ひとりの望む暮らしになるよう情報を共有している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意見、希望を担当者が聞き取り、カンファレンスで意見を出し合ったり計画作成担当者、管理者とも話し合いを行い、現状に即した計画を立てるよう努めている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に詳細に記載して情報を共有し、重要事項は赤波線を引き、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に添えるよう、柔軟な対応を心がけている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や近隣住民の方に避難訓練への参加協力や読み聞かせの会の開催などで協働していただき、ホームでの生活を楽しむことができるように努めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する病院がある場合は、希望に添うようにしている。ホームの協力医療機関があることについて説明・選択ができるようにし、適切な医療が受けられるように健康状態等についての手紙を用意したり受診同行して支援している。			
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護師の来訪時、1週間の様子や情報をお伝えし、迅速に対応できるように協働し、適切な看護や受診ができるよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書を作成し、既往歴やアレルギー、日常生活などの情報を提供している。また、早期に退院できるように情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に入る前にご本人やご家族と話す機会を設けることもあるが、体調の変化が起こった場合に説明・方針の共有を行なうことが多い。話し合う時は事業所としてできることの説明と同意をしっかりとおこなっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ノロウイルス発生時の対処方法の実習や、ユニットカンファレンス内で計画作成担当者が、事故発生時の対応等の研修を不定期だが行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難方法・避難経路、手順などは町内会の協力を得てDIGを使用して行っている。また全職員がその方法を身につけられるように資料を配布・説明している。		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、羞恥心等への配慮は怠らないように対応に気を付けている。また、日々その意識が薄れないように課題にも取り組み、より良いサービスの提供を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の表出や自己決定がしやすいよう、声掛け・質問の仕方を工夫したり、ご本人が選択できるように働きかけている。また、思いの表出には時間が掛かる場合があることも理解し、待つように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースを大切にするために、どうしたいかを尋ねるようにしている。もしご本人が迷い決定できない場合は選択肢を用意させて頂き、自己決定できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でヘアセットして頂いたり、難しい場合は希望を聞きながら鏡を見ていただいたり、マニキュア、化粧をする機会をつくっている。また、洋服も好みのものが着れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスを利用しているので盛り付け準備や、食事中は好みの味か等の会話を、片付けは一緒に行ない個々の力を得意分野で活かせる様に支援している。誕生日には食べたいもののリクエストをとり、楽しみを持って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や栄養バランスが摂れるよう配慮している。水分量は1日を通して偏らないように時間と量の配分に気を付け、状態や習慣に応じて支援するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必ず実施し、口腔内の状態の把握をし、一人ひとりに合った方法で口腔ケアができるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンが掴めるようチェックシートを利用し、排泄誘導の参考にし、トイレでの排泄ができるよう支援したり、日中は布パンツを使用するなど自立への支援を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因やその及ぼす影響についてカンファレンスで細かく話し、排便効果のある飲料や食材を取り入れ、運動にも取り組んでいる。必要に応じて下剤の調整も医師と連携を取り行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	希望がある場合は可能な限りそのタイミングに合わせて、楽しく入浴できるように支援している。また、入浴が楽しく気持ちの良いものとなるように入浴中も配慮している。銭湯に行くなどの支援も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望や状況に応じて休息して頂いている。また、夜間の安眠につながるよう日中の活動と休息のバランスが取れるように配慮している。敷・掛布団もご本人に合っている物なのか、不快は無いかの確認も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援が適切に行えるように社内研修を行い、理解を深めている。新たに追加された薬は、目的・副作用を全職員に周知するために健康管理台帳に記載し、服用後の状態を詳細にケース記録に記載している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かし、縫い物・編み物・台所仕事等自らの役割として率先して行って下さったり、ユニット内での運動会や季節行事、日常のレクリエーションなどで楽しみを持てるよう掲示物の工夫や、気分転換が図れるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿ってドライブや買い出し、ホーム周辺の散歩等、戸外に出掛けられるよう支援している。また、ご家族と協力し自宅や墓参り、外食に出掛けるなどの支援もしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の希望に沿い、個々の力に応じて財布を持ち少額を所持されている。買い物に行き、使用する際はご本人が支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話はご本人に取次ぎ、やりとりができるよう支援している。また、年賀状はご本人と一緒に手作りし、文章や名前が書けるようにも支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内の装飾は、入居者の興味のある動物や、季節を感じられるわかり易いものを一緒に制作し掲示している。不快や混乱を招かないように入居者の意見を反映させる努力をしている。また入居者同士の関係性にも配慮し、家具の配置を変更するなど適宜対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、好きな場所で過ごせるようご本人の意向を伺い、その時にあった空間づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのものをお持ちいただき、安全へ配慮し、可能な限り自宅での配置と同じ配置になるよう心掛けている。ご家族との写真や、過去に作った作品や大切なものも飾り、心地よく過ごせるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力をしっかり把握し、安全を確保したうえで出来るだけ長く自立した生活が送れるよう支援している。		